

## 第130回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動の評価

本日、第129回火山噴火予知連絡会（平成26年6月3日）以降の全国の火山活動について検討を行い、結果を以下のとおり取りまとめました。

### 全国の主な火山活動

今期間（平成26年6月3日～10月23日）、御嶽山、口永良部島、桜島、西之島、阿蘇山、諏訪之瀬島で噴火が発生しました。

御嶽山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3）〕については別に「御嶽山の火山活動に関する検討結果」として取りまとめました。

口永良部島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3）〕については別に「口永良部島の火山活動に関する検討結果」として取りまとめました。

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3）〕昭和火口の噴火活動は、活発な状態で経過しました。爆発的噴火は8月下旬から増加し、今期間265回（10月13日まで）発生し、噴火による噴煙の最高の高さは火口縁上4,500m、大きな噴石が最大3合目（昭和火口より1,300～1,800m）まで達しました。また、火口周辺にとどまるごく小規模な火砕流が1回発生しました。

地殻変動観測では、桜島島内で山体が隆起・膨張する傾向がみられましたが、2014年7月頃から沈降する傾向がみられます。また、始良カルデラ深部の膨張は、停滞していますが、長期的には膨張が進行してきており、引き続き活発な噴火活動が継続すると考えられますので、火山活動の推移に注意してください。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

西之島〔火口周辺警報（入山危険）〕2013年11月20日に南東海上での噴火が確認された西之島では、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出が継続しています。新たな陸地（西之島と接続した新島部分）の拡大の継続が確認されており、旧島のほとんどを埋没させています。2014年10月16日時点で、新たな陸地の面積は約1.85km<sup>2</sup>になっています。

西之島では噴火活動が継続しており、新たな陸地、旧島及びそれらの付近の海域では噴火に警戒してください。また、周辺海域では浮遊物に注意してください。

霧島山（新燃岳）〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2）〕GNSS観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011年12月以降鈍化・停滞していましたが、2013年12月頃から伸びの傾向がみられます。

新燃岳火口直下を震源とする地震は概ね少ない状態で経過しました。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）〔噴火予報（平常）〕2013年12月以降、韓国岳付近、韓国岳北東側、硫黄山付近で火山性地震が時々発生しています。2014年8月20日に硫

黄山付近を震源とする継続時間約7分間の火山性微動が発生しました。微動の発生に伴い傾斜計に硫黄山の北西が隆起するような変動が観測されました。

えびの高原（硫黄山）周辺では、火山活動が高まっていますので、今後の推移に注意する必要があります。また、噴気や火山ガスなどが突然噴出し、今後状況によっては噴火が発生する可能性があります。

阿蘇山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2）〕2014年8月27日以降孤立型微動や火山性地震が増加しています。中岳第一火口では、火口底の一部で赤熱を観測し、中央部付近の噴気孔は温度の高い状態となるなど火口内の熱活動が高まっています。8月30日～9月1日、9月6～7日に中岳第一火口のごく小規模な噴火が時々発生しました。

以上のように中岳第一火口の火山活動が高まっていることから、中岳第一火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

草津白根山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2）〕2014年3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加し、地殻変動観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が認められています。湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面で熱活動の活発な状態が継続しており、2014年5月頃からは湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる全磁力変化がみられています。また、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられます。

以上のように、草津白根山の火山活動は活発化しており、今後、小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

蔵王山〔噴火予報（平常）〕2014年8月から10月にかけて火山性微動が9回発生し、8月には火山性地震もやや多い状況となりました。火山性微動発生時には、傾斜変動がみられることがありました。10月8日と19日に御釜内において軽微な変色域の一時的な発生が確認されました。2013年1月以降、地震活動の高まりがみられており、過去の活動期には突発的な噴気孔の生成、火山ガスや泥の噴出等の現象もありましたので、観光や登山で近づく際には十分に注意してください。

注) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

【本件に関する問い合わせ先】

気象庁 地震火山部 火山課（電話：03-3284-1749）

## 第130回火山噴火予知連絡会 御嶽山の火山活動に関する検討結果

御嶽山の火山活動には低下傾向がみられるものの、今後噴気活動や地震活動等が活発化する場合には、火口周辺に大きな噴石を飛散させ、火砕流を伴うような噴火が発生する可能性があります。

御嶽山では、9月27日に水蒸気噴火が発生しました。噴火は剣ヶ峰山頂の南西側に新たに形成された北西から南東に伸びる火口列で発生し、大きな噴石が火口列から約1キロメートルの範囲に飛散しました。また、火砕流が発生し、火口列から、南西方向に約2.5キロメートル及び北西方向に約1.5キロメートル流下しました。火砕流は発生しましたが、地獄谷付近では樹木が焦げたような痕跡は認められませんでした。

9月27日以降、活発な噴煙活動と連続的な火山灰の放出が続きましたが、10月11日以降は火山灰を含む有色の噴煙は観測されず、噴煙活動も徐々に低下してきています。

二酸化硫黄の放出量は、噴火発生直後から10月3日までは1日あたりおよそ500トンから1500トンと多い状態で推移しましたが、その後は1日あたりおよそ100トンから500トンとやや少ない状態となっています。

火山性微動は振幅の増減を繰り返していましたが、10月7日以降は検知できない程度の大きさになっています。火山性地震は噴火発生直後には多発しましたが、その後は次第に減少してきています。

御嶽山東麓の水準測量では、2006年から2013年にかけて隆起が観測されていましたが、噴火後の測量で沈降が観測されました。なお、傾斜計でも、噴火直前に山側上がりの変化がみられ、噴火とともに山側下がりとなりました。

以上のことから、火山活動には低下傾向がみられるものの、火口列からの噴煙活動や地震活動が続いており、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

また、噴気活動や地震活動等が活発化する場合には、火口周辺に大きな噴石を飛散させ、火砕流を伴うような噴火となる可能性があります。積雪期に火砕流が発生したり、熱水が流出したりした場合には、火山泥流が発生する可能性があります。

今後も噴気活動や地震活動、地殻変動等のデータを注意深く見守る必要があります。

引き続き、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振に注意してください。また、降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。

## 第130回火山噴火予知連絡会 口永良部島の火山活動に関する検討結果

口永良部島では、噴煙活動等が継続しており、今後も8月3日と同程度の噴火が発生する可能性があります。

口永良部島の新岳では、8月3日に噴火が発生しました。大きな噴石が山頂火口から約1キロメートルの範囲に飛散し、火砕流が新岳山頂火口の南西側から西側にかけてと東側に流下しました。噴出した火山灰には新鮮なガラス質粒子が少量含まれており、今回の噴火にはマグマが関与したと考えられます。

8月3日の噴火以降、新たな噴火は発生していません。新岳山頂火口や西側割れ目からの噴煙活動がやや活発な状態で継続しており、10月7日から8日に実施した現地調査では、新岳南西斜面で新たな噴気が確認されています。

二酸化硫黄の放出量は、1日あたり200から500トンと噴火前（1日あたり100トン未満）よりも多い状態となっています。

火山性地震や継続時間の短い火山性微動を時々観測しました。

水準測量やGNSS観測によると、山麓の観測点による基線長には大きな変化は認められていません。

以上のことから、噴煙活動等は継続しており、今後も8月3日と同程度の噴火が発生する可能性があります。

現在のところ、マグマが大量に上昇していることを示す変化はみられず、大規模な噴火につながる兆候は認められませんが、今後も地殻変動等のデータを注意深く見守る必要があります。

引き続き、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。また、降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。

【本件に関する問合せ先】気象庁地震火山部火山課

電話 03-3284-1749